市報とおかまち
平成22年（2010）March　第119号
TOKAMACHI
3.10

だんだん

どうぞ

冬の一大行事、十日町雪まつり。コミュニティひろば（十日町高校グラウンド）内の特設会場で行われる雪上茶席は、毎年行列ができる人気のイベントです。訪れた皆さんは、華やかな着物姿の女性や子どもから抹茶を受け取り、真っ白な雪の日本庭園でみやびな一服を楽しみました。

愛称「だんだん」は、方言のあいさつ「だんだんどうも」、「河岸段丘・棚田」、「ステップアップ」などを表しています。

主な内容

- 第61回十日町雪まつり …… 2-6
- こちら市役所窓口です …… 7
- 協働のまちづくりフォーラム2010 …… 8-11
- 後期高齢者医療／下水道 …… 12-13
- サケの稚魚市民環境放流／JR問題市民説明会 ほか … 14-15
- 雪の国のおはなし④ …… 16-17
- 地域の風～支所からのたより～ …… 18-19
- ときめきネットワーク／元気予報 ほか …… 20-21
- まちの話題TOPICS／観光交流都市 …… 22-23
- お知らせ・ガイド …… 24-25
- ジュニア芸術祭 ―千手小学校― …… 26

現代雪まつり発祥の地

白い愛の祭典

第61回

十日町雪まつり開催

2月19日㈮から21日㈰に開催された、第61回十日町雪まつり。天候に大きな乱れがなく、首都圏を中心に展開した広報宣伝活動が功を奏したことや期間中まんべんなく集客力のあるゲスト出演のイベントが開催されたこともあり、前回を上回る延べ31万5、000人の人出でにぎわいました。前回の記録的な少雪の中での開催とは打って変わっての雪まつり。市内には多くの雪だるまが作られるなど歓迎ムードを演出しての開催に、たくさんの観光客が雪まつりを楽しんでいました。

大盛況の雪上カーニバル

20日㈯に開催された、十日町雪まつりのメーンイベント「雪上カーニバル」には、延べ30、000人が入場しました。「未来へつなぐ愛の炎2」と題した雪の舞台は、県鳥トキと信濃川をモチーフにデザインされ、国宝火焔型土器を表現したテラスには炎がともされました。

司会を務めたココリコ遠藤さんの軽妙なトークに会場はヒートアップ。地元からは、十日町小学校児童とDADDYSによるダンスや繭の会がきものショーを熱演。北京オリンピック金メダリストの吉田沙保里さんや、サプライズゲストにペナルティが登場するなど華やかな演出で盛り上がりました。渡辺美里さんのライブステージでは、数々の名曲に会場の観客は魅了され、フィナーレの壮大な雪花火で幕を閉じました。

臨時列車で雪まつり

今回の雪まつりには、JR東日本と北越急行の協力により、首都圏や長野、上越、新潟から計6本の雪まつり臨時列車が運行されました。臨時列車の到着に合わせてミス十日町雪まつりなどが来訪客を出迎え、地元産品をふるまい歓迎しました。

ウェルカムセレモニーで横浜観光親善大使といぶすき花の女王を歓迎する、ミス十日町雪まつりと雪まつりキャラクターのネージュくん。

3日間にわたる十日町雪まつりの開幕を告げる、オープニングフェスティバルにはたくさんの人が訪れました。

十日町発祥の雪上スポーツ、ツマリアンボール選手権大会には55組約300人がエントリー。白熱した試合が繰り広げられました。

郷土文化の薫り高い「郷土芸能と民謡の祭典」。市内の7団体約150人が出演し、うたや踊りを披露しました。

雪まつりイベント

19日午後6時30分からのオープニングフェスティバルを皮切りに雪まつりは開幕。20日にはミス交流をしている横浜観光親善大使といぶすき花の女王の皆さんを歓迎するウェルカムセレモニーが行われました。21日には郷土芸能と民謡の祭典やツマリアンボール選手権大会が行われ、コミュニティひろばを中心にたくさんのイベントが開催されました。

雪まつり協賛イベント

21日にキナーレで開催されたサウンドスプラッシュウィンターステージには「ヒルクライム」をはじめ、県内出身の人気アーティストが集結。会場に入れない人が出るほどの盛況ぶりでした。

雪まつり恒例となったライブイベント、豪雪JAM。雪上カーニバル翌日の21日、雪上ステージで音楽イベントが開催されました。

ミス十日町雪まつりコンテスト

右からミス十日町雪まつりの今井さん、金子さん、村山さん

21日にクロス10で行われた第29回ミス十日町雪まつりコンテスト。本選会に出場した16人の中から、3人のミス十日町雪まつりが選ばれました。

今井美穂さん（見附市・20歳）―これから十日町市のことを勉強して市外の人に魅力を伝えていきたい。

金子彩花さん（上越市・22歳）―コンテストのために家族が応援してくれました。選ばれて光栄です。

村山裕美さん（水沢・23歳）―若い人が着物を着る機会が少ないので、もっと着てもらえるようにPRしていきたい。

第61回十日町雪まつり

雪まつりの原点「雪の芸術展」には、芸術部門35点、特別部門15点、学童部門16点の計66点が出展されました。芸術部門に入賞した22作品を紹介します。

今年の特別表彰は下記の７団体です。

特別表彰受賞団体	５年連続表彰	川治内後町内会 川治下妻会 田麦有志と日本大学芸術学部
	10年連続表彰	北新会with新田イベント研究所
	15年参加表彰	本町７丁目 三和町 町内会 学校町１丁目町内会
	30年参加表彰	上新田いずみ会

十日町市長賞
「ディープ・オーシャン～雪蒼海遊覧～」
（アウト・ドア・ファミリー４クラブ）

十日町市議会議長賞
「あ！鮭だ」
（上新田青壮年会）

十日町織物工業協同組合理事長賞
「十日町の新しい響　パイレンツオブカリブ海」
（本町７丁目 三和町 町内会）

新潟県建設業協会十日町支部長賞
「あのクモの彼方に」
（上新田いずみ会）

十日町市文化協会連合会長賞
「春の晋請『ドウゴ引き』」
（美佐島駅雪まつり実行委員会）

十日町北ロータリークラブ賞
「大江山の鬼退治・酒呑童子伝説」
（北新会with新田イベント研究所）

十日町平成ライオンズクラブ賞
「共生の舞い」
（愛ing下条）

地元新聞社賞
「もどってこいよ！」
（高田町１丁目商店街振興組合）

十日町地域森林組合長賞
「毘沙門天」
（晒青会）

三国コカ・コーラボトリング賞
「いいスタートをきろう十日町」
（下条本町青壮年会）

審査員賞
「赤倉神楽 獅子と天狗の大立ち回り」
（赤倉雪まつり実行委員会）

純白の造型美

雪の芸術作品展

十日町商工会議所会頭賞
「わくわくビックリサンダーマウンテン」
（城之古青年会）

十日町市長賞
「愛‥ゆめ」
（水沢雪まつり会）

十日町農業協同組合会長賞
「ＴＲＹ！ＴＲＹ！ＴＲＹ！」
（新和会）

十日町市商店街振興組合連合会長賞
「そっけなんいらね！」
（三春会）

十日町ロータリークラブ賞
「一休さん」
（のぞみの郷 新墾会）

十日町ライオンズクラブ賞
「We are the world」
（田麦有志と日本大学芸術学部）

十日町青年会議所理事長賞
「拓く」
（学校町１丁目町内会）

キリンビール賞
「『日本を洗たくして候』」
（あてま有志の会）

ほくほく線賞
「夢の中へ」
（関浅四季の会）

審査員賞
「えっ！虎が本当に･･･」
（川治内後町内会）

ひろばアラカルト

市内には29のひろばが開設され、工夫を凝らしたイベントや心温まるおもてなしで、来訪者を温かく迎え入れました。

「ベルナティオひろば」では恒例の「雪リンピックinあてま」が開催され、たくさんの人が家族連れで参加しました。

今年もにぎわった「駅前イベントひろば」。十日町おにぎり軍団の名物、スープおにぎりで心も体もぽっかぽか。

「石ぼとけひろば」には歌手の竹川美子さんが出演し、オリコン演歌・歌謡曲部門1位を獲得した、『雪の十日町』を熱唱しました。

「はくぶつかんひろば」では、来訪客に古代復元住居で縄文クッキーやどんぐり茶をふるまい、もてなしました。

コミュニティひろば

市内最大の「コミュニティひろば」では、3日間さまざまなイベントが行われたほか、会場内に飲食・物産ブースが立ち並び大勢の人でにぎわいました。今年から始めた福雪だるまのコーナーでは、たくさんの人が思い思いに作った雪だるまに願いごとを書いた小旗を張って、会場を盛り上げていました。

釣り堀や巨大滑り台など子どもから大人まで楽しめる遊びがいっぱい！

十日町青年会議所主催によるよさこいソーラン。西小学校の児童たちが練習の成果を披露しました。

福を呼ぶ 福雪だるま

雪まつり期間中、コミュニティひろばの一角を埋め尽くした雪だるまたち。第38回の雪まつりから始まった『雪だるま大作戦』は、〝雪だるまを作った人に福が舞い込むように〟と、今年から『福雪だるま』に名前を変えました。十日町青年会議所福雪ひろば班の岡村義宏チーフは、「子どもたちが楽しそうに雪だるまを作ってくれてうれしかったですね。街中でもよく旗を見かけました。来年も多くの皆さんに参加してほしいです」と話していました。

こちら 市役所窓口です

今年も就職・転勤・進学などの時期になりました。転出日・転出先が決まったら、早めに手続きにおいでください。この異動の期間、市では一部の窓口業務を延長します。

また、各種証明書は、本庁では土・日曜日の午前中、情報館では土・日曜日と祝日にも発行しています。平日は本町分庁舎でも証明書を発行していますのでご利用ください。

年度末は混雑が予想されます 届出はお早めに

3月・4月は窓口が大変混雑します。証明書の発行に時間がかかることもありますので、ご了承ください。特に、休日の前後や昼休みは混雑が予想されます。ほかの時間を利用すると、待ち時間が少なくなります。

本庁の窓口業務を延長します

3月23日(火)～4月9日(金)の間、次の❶～❼の業務の窓口を午後7時まで延長します。延長時間中は、対応する職員が少なくなるため、お待たせすることがあります。ご了承ください。

延長窓口の業務内容

延長窓口では、次のサービスを行っています。

❶戸籍事務
出生届、死亡届、婚姻届、離婚届の受付、戸籍・除籍・改製原戸籍証明書の発行など

❷住民基本台帳事務
転入・転出・転居届、世帯主変更届の受付、住民票の写し、住民基本台帳カードの発行など

❸印鑑証明書発行事務
印鑑登録証・印鑑登録証明書の発行

❹自動車臨時運行許可事務

❺外国人登録事務

❻国民年金関係用務
児童手当、児童扶養手当及び国民年金の各種請求などの受付

❼国民健康保険関係用務
国民健康保険に関する申請などの受付

注意
旅券（パスポート）事務及び公的個人認証（電子証明取得）事務は延長しません。午後5時までに窓口においでください。

土・日曜日、祝日の証明書発行

◆市役所本庁市民生活課
土・日曜日の午前8時30分～正午
※住所異動・印鑑登録・パスポート・住民基本台帳カードの受付と電子証明取得事務はできません。

◆情報館
土・日曜日、祝日の午前9時30分～午後5時
（平日は発行していません）

◎発行できる証明書
・戸籍全部事項証明書（謄本）【1通450円】
・戸籍個人事項証明書（抄本）【1通450円】
・住民票の写し【1通300円】
・印鑑登録証明書【1通300円】
※印鑑登録証明書を請求する人は、必ず印鑑登録証を持参してください。登録印があっても印鑑登録証の提示がないと発行できません。

戸籍や住民票などの請求時に本人確認を行っています

戸籍法及び住民基本台帳法の改正により、戸籍や住民票などの請求時に本人確認を行っています。申請する場合は、免許証や住基カード（写真付き）などの本人確認書類をお持ちください。詳細は、市民生活課市民係へ問い合わせてください。

問合せ
市民生活課市民係
☎757―3116

協働のまちづくり情報㉓

協働のまちづくりフォーラム2010開催

～つながりから広がりへ～

２月28日㈰、市民会館ホールで「協働のまちづくりフォーラム2010」が開催され、地域活動団体関係者や一般市民、市議会議員、市職員など約200人が、講演や協働のまちづくりモデル事業の実践報告などをとおして意見交換をしました。今後は、本年度の成果をもとに、モデル事業の再構築や市民活動の連携の推進、市民活動を支援するための組織や拠点のあり方などを検討していきます。

●まちづくり講演
いま地域活動が利益を生む
～企業経営と社会貢献のベストマッチング～
講師 大里綜合管理㈱代表取締役社長 野老（ところ） 真理子 氏

●千葉県大網白里町で不動産管理会社経営。社員30人、年商5億。
●「地域の企業として地域課題の解決を目指すのは当然のこと」と、熱心に社会貢献事業を展開。
●社屋を開放しての学童保育に始まり、駅や道路の清掃、交通整理、花の植栽、コンサート・セミナー・カルチャー教室・コミュニティレストランなどの運営、１００キロ歩きイベントなど、地域貢献は１３０以上。

１００万円の使い方

私たちの会社は、不動産の仲介や建築、土地建物の管理などを行う創業36年の地域密着の中小企業です。

地域の中で企業活動を続けていくためには、その地域がいろんな意味で豊かになることが大事です。そのために、社員とともにお手伝いをさせていただいています。そのうえで、私たちの会社を選んでくれるお客さんがごく自然に生まれてくれたら、とてもうれしいことです。

たとえば、不動産業だと、物件の紹介をするためにチラシをまくことがよくあります。それも大量に。それで商談が成立すれば、確かに効果があったことになるでしょう。でもそれは、１人か２人のためには重要な情報だったかもしれませんが、あとの残りは、みんなごみになっているかもしれません。

１００万円の広告費を使う分で、コンサートを10回開いた方が地域の人たちにもアーティストにも喜んでもらえるし、足を運んでくれた人が会場が不動産会社だと知って、お客さんになってくれるかもしれません。確率としてはとても低いかもしれませんが、同じお金を使うなら、この方が生きた使い方だと思うんです。

もちろん、広告的な手法も使っています。でもそれは、フリーマーケットや農業体験、寄席やコンサート、セミナーや子育て情報交換会など、私たちが地域の皆さんといっしょに取り組んでいる地域活動の情報をメ

ーンに掲載し、不動産情報は裏面にまとめています。おかげさまで、「捨てられない情報紙だ」と、地域の人たちに喜ばれています。

学童保育からレストラン

私たちの会社が学童保育に取り組むようになって、16年になります。最初は、社員の子連れ出勤を受け入れることから始めました。私自身、泣いていやがる子どもを置いて出勤しても、後ろ髪引かれる思いで仕事に専念できない経験がありました。

みんなが仕事をしているといっても、１日中ずっとデスクワークをしているわけでも、ずっと外に出ているわけでもありません。必ず空いた時間、空くスペースがあると気がついたんです。だったらそれを使ってみんなで子どもたちの面倒をみてみようって始めたら、さらにいろんなことに気がつきました。

赤ちゃんもいますから床ではいはいします。だから床も壁も机もみんなピカピカに磨かなければなりません。物品の整理も進みます。毎朝１時間をかけて清掃と整理整とんにあてています。どこを動かしてもごみもほこりも出ない環境が保たれています。机も、引き出しのない木製のテーブルタイプにしました。それで十分なんです。机やいすはすぐに片付けられるし、10分でコンサート会場に変身します。

社員の子どものほか、近所の小・中学生も受け入れています。法令に基づかない学童保育ですから、先生はいません。１回５００円の給料を払って高学年に低学年の面倒をみてもらっています。

夏休みも含め、多いときは60人くらいになります。おやつも自分たちで作り、社員にも販売しています。そうすることで、社会性やきちんとした生活習慣も身に付くようです。大人たちも、子どもの見ている前ですから態度や言葉遣いが自然とソフトなものになり、職場のコミュニケーション向上に役立っています。

ここで育った子が地域のリーダーになってほしいと思っています。そうなれば、子どもたちも、地域も、会社も幸せになれるんじゃないかと思います。実際、私たちの会社には、ここの卒業生が２人、社員として働いています。

社員の健康維持のために始めた社員食堂を市民にも開放しています。シェフは近所の主婦などで、シェフも料理も日替わりのレストランとして知られています。市民同士の交流の場としても利用されています。

気づいたら始める

「気がついたら始める」ということで取り組んでいるのが、駅や道路、海岸などの清掃です。ごみが落ちていたら、行政や業者に苦情を言う前に拾ってしまえばいいんです。土手が草ぼうぼうだったら、刈って花を植えてしまうんです。隣の外食店の店長さんに声かけをしたのがきっかけで、今は１００を超える事業所の皆さんが駅や道路、海岸の清掃活動に取り組んでくれています。

「許可病」から抜け出そう

現代は、「許可病」にかかっていると思います。駅前がいつも渋滞するので、有志で交通整理を始めたら、「何の権限があるんだ」「許可はとったのか」といつも言われました。「必要だから」「目の前に課題があるから」と続けているうちに、バスやタクシーの運転手さんから感謝されるようになり、会社のお客さんにもなってくれました。今では、感謝こそされ、苦情はなくなりました。

課題や問題を政治や役所やだれかのせいにするのではなく、自分の責任でやっていくと、やれることがどんどん増えていきます。そうすると、「だれかがやってくれない」とイライラすることも、ストレスもなくなっていくから不思議です。

何よりも、自分たちでまちをつくっていく喜びがあります。「気づいたら始める」。それがまちづくりの原点だと思います。

●協働セッション
いま広がりのとき
～モデル事業の成果と新たな展開～

運　営　**協働のまちづくり推進プロジェクトチーム**
コーディネーター　**寺川　重俊 氏**（寺川ムラまち研究所代表取締役）
アドバイザー　**野老　真理子 氏**（まちづくり講演講師）

協働セッションでは、市民や市民団体とともに進められている「協働のまちづくりモデル事業」の報告と、関口市長も交えて、今後の市民活動の連携や支援などについて意見交換が行われました。

【第1部】協働のまちづくり実践報告（モデル事業）

1大地の芸術祭地域おもてなし事業

〈発表〉
樋口道子さん（プロジェクトチーム）
この事業は、芸術祭の来訪者に対して、個性あふれるおもてなし活動を進めるために始められました。
アイデア提案型の「地域おもてなし事業補助金」制度を、大地の芸術祭実行委員会といっしょに立ち上げて実施しました。6月に「アイデア交歓会」、7月から8月にかけて67団体によるおもてなし事業の実施と現地視察、10月の「想いで交歓会」の開催などが主なもの。各地で、ユニークな心のこもったおもてなしが行われ、来訪者にとても好評でした。
今後は、「おもてなしの質の向上」を目指した交流や研修なども必要だと思います。

〈コメント〉
羽鳥新吉さん（こんぱすの会）
休憩所を設けて野菜など地域の特産品の販売も行いました。畑の野菜を直接とって食べたいというお客さんも多く、そのとおりにしてあげたらとても喜ばれました。お客さんとのつながりは財産。これを生かしていきたいと思います。
湯澤佳子さん（きものの集いの会）
きもの姿で抹茶のサービスを行いました。お客さんからは、自然と芸術、きものも含めた地域の文化、それと人の心のバランスがとても良いと喜ばれました。継続は力なり。知恵を出し合って続けていきたいです。

2十日町市棚田プロジェクト

〈発表〉
葉賀祐子さん（プロジェクトチーム）
市内にたくさんある棚田や沢田など、先人たちが守ってきた「やま田」をみんなの財産として確認し、保存や観光分野での活用を目指そうという取り組みです。具体的には、「おらどこの棚田（やまだ）じまん」として、耕作者から写真とコメントを募集し、28点を10月に実施された全国棚田サミットの会場と、12月に情報館でも展示しました。見学者からは、「やま田を見てみたい」「農作業を手伝いたい」などの意見が寄せられました。
今後は、見学体験会など、棚田保全を支援する人たちへの働きかけの検討を進めていきたいと思います。

〈コメント〉
江口通博さん（小白倉）
私の家では、夏の間、世界各国の若者のホームステイを受け入れています。イタリアの若者の話では、イタリアでもワイナリーの継ぎ手がなくて、ぶどう畑の耕作放棄地が増えているということでした。どこも同じなんだなと思いました。今回応募した写真を関東の知人の店に飾ったところ、そこでとれた米を食べたいという多くの問合せがあり、驚きました。これからも続けてほしいです。

3雪の国のおはなし

〈発表〉
星野　康さん（プロジェクトチーム）
これは、市民・業者・行政が協働して「快適な雪国の暮らし」をつくり出すためのきっかけとして始まりました。公募で編集委員会を立ち上げ、市報などで情報発信しています。消雪パイプや流雪溝、除雪オペレーターの一日など、高校生も交えて取材しています。今後は雪の活用アイデアなども紹介していきます。

〈コメント〉
佐藤秀樹さん（㈱興和）
消雪パイプなど、除雪事業にかかわっている立場で参加しています。ふだん、一般市民や除雪に直接かかわらない行政の人たちと意見交換する機会はとても貴重だと思います。今後も、参加したいと思います。
尾身誠司さん（NPOセーフティネットぼうさい）
「雪はじゃまものか」という思いで調査や勉強をしてきました。年齢とともに雪ほりがつらくなってきています（笑）が、これを水や冷熱エネルギー資源として考えたとき、大事に使っていかなければならないと思っています。

4十日町市〇〇（まるマル）ネット交流会

〈発表〉
真霜和彦さん（プロジェクトチーム）
「団体間の交流機会がほしい」という市民活動団体の声がベースになって交流会を開催しました。52団体約100人が参加し、①子育て・支え合い②イベント・交流③安全と安心④農とビジネスのテーマに分かれて情報交換しました。基調講演では、三条市と村上市から講師を招き、市民活動支援組織について学びました。交流と活動を支援する拠点の必要性が意見として多く出ました。

〈コメント〉
押木敦子さん（アートネットかわにし）
交流して情報交換することはとても大事ですが、この先、だれがどうやって続けていくのかを、十分検討する必要があると思います。いろんな人が横につながって、知恵を出し合いながら進めましょう。
藤巻優樹さん（社）十日町青年会議所）
この交流会で市内のいろんな活動のことを知り、また私たちの活動も知ってもらうことができて有意義でした。継続して、新たなまちづくりにつなげていければと思います。

【第2部】協働のまちづくりの広がりを考える

【視察報告】市民活動支援組織

渡貫文人さん（プロジェクトチーム）
上越市と村上市のNPO団体を視察しました。市内の市民活動団体の支援をきめ細やかに行っているとともに、情報誌や地元紙を使って効果的に情報発信していました。人の流れがある場所に設置するなど、活動拠点の位置も大事だと思いました。

樋口展久さん（プロジェクトチーム）
千葉・神奈川の5つの支援組織を視察しました。それぞれもともと市民活動が活発で、市民が自主的に運営していました。市からの委託費のほか、自主財源獲得のノウハウも持っていて、自立した組織だと感じました。女性がリーダシップを発揮していたのも印象的でした。

【意見交換】広がりのある協働へ

裾澤英和さん（中条地区自主防災会）
いろんな市民活動がありますが、無関心の人たちにも声かけをしていこうと思います。芸術祭のお客さんから、「十日町っていいとこですね」と100回言われると本当だと錯覚してしまう（笑）。去年よりも良くなった、来年はもっと良くなると錯覚することも、現実に結びつけていく力になるのではないでしょうか。
春日克美さん（おやこ遊びの会ほっぺ）
つながりたいと思っていてもやり方が分からない団体が多い中、それを中間で支援する組織は大事だと思います。ただ、作ればいいわけではなく、いっしょに考えいっしょに行動するフットワークの良さが求められます。行政の情報と市民のネットワークを生かした組織が生まれれば、みんながかかわると思います。
関口芳史 市長
皆さんの話を聞いて、解決したい地域課題が明確に人の心に入れば、協働は進むと感じました。特に、野老さんの話を聞いて、涙が出るほどの感動を覚えました。また、企業の力のすごさも再認識しました。しかし、地域には野老さんのような人は多くいません。そのために、市民団体がお互いに補完し合える関係になることが大事だと思います。
十日町市では、これまで地域型の協働は多くありましたが、テーマでつながる活動はそれほど多くなく、ようやく歩き始めていると思います。市民団体の活動を支える中間支援的な組織も大事だと感じました。

●問合せ　総合政策課協働のまちづくり推進室　☎757―3693（内線235）

後期高齢者医療制度のお知らせ

平成22年度の保険料額は7月にお知らせします

平成22年度の保険料額は、前年中の収入状況に基づいて7月1日に算定されます。加入している皆さんへは、7月中旬に「平成22年度の保険料額のお知らせ」を送付します。

平成22年度分の保険料の納め方

◆特別徴収（年金からの天引き）の人

年6回の年金支給の際に保険料が天引きされます。

◇4・6・8月：仮徴収

平成22年2月の年金からの徴収額と同額が3回天引きされます。

◇10・12・2月：本徴収

確定した年間保険料から仮徴収分を差し引いた額が3回に分けて天引きされます。

※昨年8月の年金からの納付を最後に保険料徴収が中断されていた人は、7～9月は普通徴収（納付書または口座振替による納付）となります。

◆普通徴収（納付書または口座振替で納付）の人

7月から翌年3月まで毎月、納付書または口座振替で納めてもらいます。口座振替の手続きをすると、納め忘れがなく便利です。

ただし、75歳に到達するなど年度途中に加入した場合は、加入後6か月程度で特別徴収へ切り替わる場合があります。個別に送付される通知書で確認してください。

高額医療・高額介護合算制度が始まりました

新潟県後期高齢者医療広域連合から申請案内書が届いた人は、早めに市の窓口で申請してください。

◎申請に必要なもの

①申請書
②後期高齢者医療被保険者証
③介護保険証
④振込口座が分かるもの
⑤印鑑

●問合せ
介護国保課国保係
☎ 757-3735

国民健康保険

高齢受給者証の自己負担割合の変更が延長されます

医療制度の改正により、平成22年４月から70～74歳の人は自己負担割合が１割から２割に変更される予定でしたが、経過措置の延長で平成23年３月まで１割に据え置かれることになりました。

これに伴い、高齢受給者証の自己負担割合の表記が「２割（平成22年３月31日までは１割）」となっている人は、**４月１日(木)から「２割（平成22年７月31日までは１割）」に変更します。**変更後の高齢受給者証は、３月19日(金)に発送予定です（平成22年８月１日～23年３月31日までのものは、７月下旬に送付します）。

高齢受給者証が届いたら、住所・世帯主氏名・被保険者氏名など記載事項を確認し、誤りがある場合は届け出てください。また、裏面の注意事項もよくお読みください。４月１日以降、今までの高齢受給者証は使用できませんので、誤使用を防ぐために必ず裁断するなどして破棄するか、国保係または各支所市民課に返還してください。

※自己負担割合が３割の人は変更ありません。

下水道 地球を守るリサイクル

問合せ
上下水道局
下水道維持係
☎ 757-3115

下水道整備区域

3年以内の接続を

下水道は、河川などの公共用水域の水質保全と生活環境の向上を担う重要な施設です。このため、毎年投資を行い、下水道が使用できるよう整備しています。

下水道法では、下水道が使えるようになった区域は、「遅滞なく下水道に流入させる為、排水設備を設置しなければならない」と義務付けています。下水道が使用できる区域の皆さんは一日も早い接続をお願いします。

下水道使用料

下水管の修理・清掃や、処理場で汚水をきれいな水に還元する費用の一部に充てるため、使用した水の量に応じて下水道使用料を納めてもらいます。

使用料には、水をたくさん使うほど割高になる累進使用料金方式を採用しています。

下水道接続工事への融資制度

◆貸付利率　２・２％
◆貸付限度額　１００万円
◆返済期間　最長60か月

下水道は、何でも流せるというものではありません。廃油など、処理場で処理できないものは流さないようにしてください。下水道を利用する一人ひとりが注意しましょう。

◎水洗便所では、トイレットペーパー以外の紙や異物などを流さないようにしましょう。

◎台所では、野菜くずやごはんの残り物、食用廃油などを流さないようにしましょう。

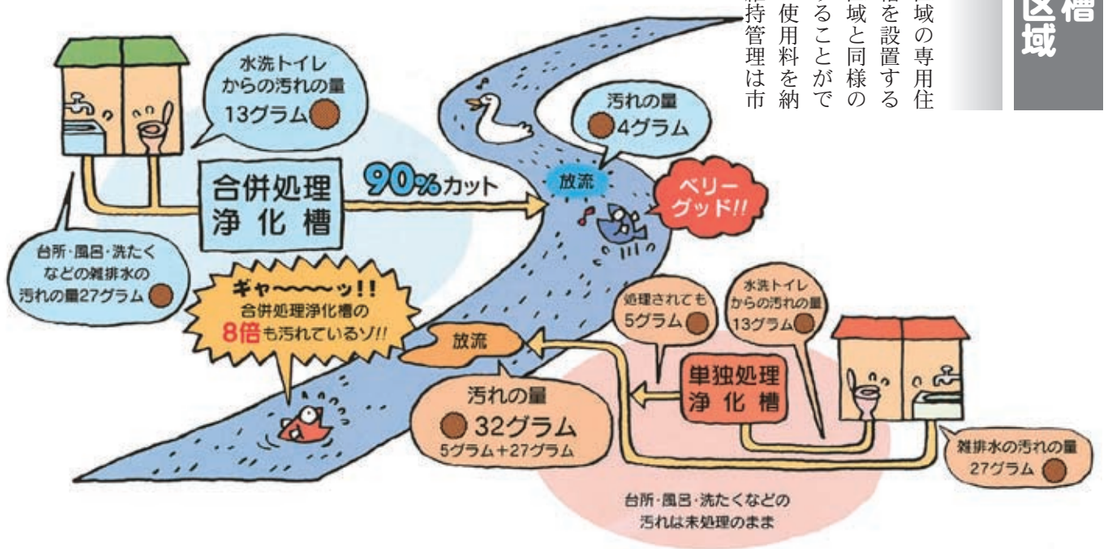
合併処理浄化槽整備区域

浄化槽整備事業

合併処理浄化槽整備区域の専用住宅について、市が浄化槽を設置する事業です。下水道計画区域と同様の負担額で水洗化を実施することができます。下水道と同額の使用料を納めてもらい、浄化槽の維持管理は市が行います。

合併処理浄化槽への転換を

合併処理浄化槽を設置した家は、単独処理浄化槽・くみ取りを設置した家に比べ、水路や川などに放流される生活排水の汚れの量が約1/8までに減少します。



カムバックサーモン
“サケの稚魚 市民環境放流”

信濃川、そして上流の千曲川・犀川までサケを遡上（そじょう）させる運動に取り組むＮＰＯ法人新潟水辺の会では、今年も「サケの稚魚　市民環境放流」を新潟県（信濃川）と長野県（千曲川・犀川）で行います。

信濃川では、宮中取水ダム下流にて、同会とＪＲ東日本が協働で20万尾の稚魚放流を行います。

大きく成長した数多くのサケが、またこの地へ帰ってくることを願い、市民の皆さんも放流活動に参加しませんか。

■**日時**：３月21日㈰　午後２時～３時（予定）

■**放流場所**：宮中取水ダム下流右岸河川敷（魚道付近）

■**集合**：午後１時30分　ミオンなかさと第２駐車場

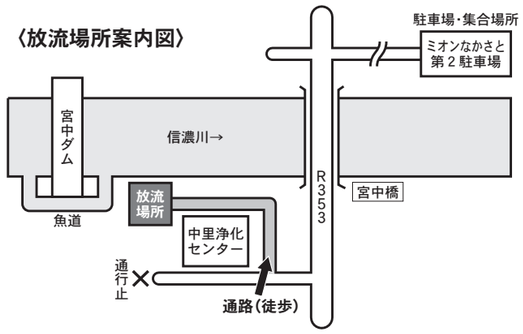
※放流場所付近には駐車場がありませんので、こちらへ駐車をお願いします。駐車場と放流場所間はシャトルバスを運行します。徒歩の場合は、午後２時までに放流場所へ集合してください。

■**申込み**：参加無料・事前の申込みは不要です。当日時間までに集合してください。小学生以下の場合は保護者もいっしょに参加してください。

■**その他**：当日はぬれても良い服装（雨具・長靴など）でおいでください。また、稚魚放流に使うバケツを持参してください。

■**問合せ**：克雪維持課克雪利水係　☎757―3198

〈放流場所案内図〉



第３期　中山間地域等直接支払制度説明会

平成22年度から、第３期中山間地域等直接支払制度がスタートしますので、制度の内容などについて下記日程で説明会を開催します。

●**制度の目的**

中山間地域は農業生産や自然環境保全、保健休養、景観などさまざまな面で重要な地域ですが、耕作不利な条件から農業生産性が低く、農業所得・農外所得ともに低い状態となっています。 また、農村地域は全国平均よりも高齢化が進んでいますが、特に中山間地域などは高齢化が進行しています。

このようなことから中山間地域の農業生産条件の不利を補正し、農用地と農業を守っていく制度です。

日　時	場　所	参加申込み
３月19日㈮ 午後７時～	松代支所４階大会議室	松代支所農林建設課　農業振興係　☎597-2222
３月23日㈫ 午後７時～	中里支所３階大会議室	中里支所農林建設課　農業振興係　☎763-2510
３月24日㈬ 午後７時～	松之山自然休養村センター ２階大会議室	松之山支所農林建設課　農業振興係　☎596-3132
３月26日㈮ 午後１時30分～	市民会館ホール	本庁農林課　農業振興係　☎757-9922 川西支所農林建設課　農業振興係　☎768-4961

※資料など準備の都合がありますので、集落協定役員以外で参加希望の人は、開催日の３日前までに会場の申込み先に連絡してください。

※十日町・川西・中里地域と松代・松之山地域間の電話には市外局番「025」が必要です。

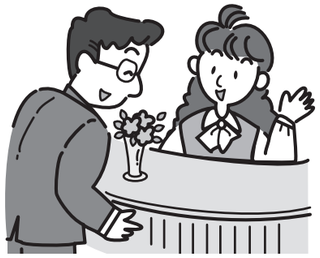
県から市への事務・権限の移譲について

～手続きなどが一部変更になります～

市では、市民の利便性向上や市の自治権強化などを目的に、４月１日に県から28項目の事務・権限の移譲を受けることになりました。移譲を受ける事務・権限の中で、申請や届出の件数が多いなど、特に市民・事業所の皆さんに関係が深いものについて、下記のとおりお知らせします。また、下記以外の移譲を受けた事務・権限については、市ホームページをご覧ください。

【事務・権限の移譲とは】

地方分権を実現する手段の一つとして、全国で進められているものです。住民の利便性向上や市町村の自治権強化を通じた個性豊かな地域づくりなどを目的として、県庁や県の地域機関が所管していた事務・権限を、住民・地域に身近な市町村が担っていくものです。



事務・権限の名称	変更内容	4月以降の担当・問合せ
特定非営利活動促進法に関する事務	十日町市内で完結するNPO法人に関する、法人の認証、定款変更認証、役員変更届などの届出の受理、毎年度の事業報告の受理などを市が行います。	企画政策課協働推進係
浄化槽の設置・廃止・使用等に関する事務	浄化槽の設置・廃止届の受理、使用開始報告の受理などを市が行います。 （現在は市から県に経由している事務です）	上下水道局下水道維持係
農地転用に関する事務 （２ha以下）	農地転用（２ha以下）の許可を、市が行います。 （現在は市から県に経由している事務です）	農業委員会事務局

■**問合せ**　総合政策課企画政策係　☎ 757-3193

～ JR 東日本信濃川発電所問題～

「信濃川の河川流量の決定に向けた　市民説明会」

ＪＲ東日本信濃川発電所の水利申請に向け、「５年間の試験放流を軸にした」信濃川の河川流量の決定に向けた考え方について、ＪＲ対策市民協議会（会長　関口市長）が直接説明する市民説明会を開催します。

事前の申込みは不要です。

■**日　時：３月18日㈭　午後７時～**

■**場　所：クロス10（十日町地域地場産業振興センター）２階「大ホール」**

●**問合せ　克雪維持課克雪利水係　☎ 757-3198**

協働のまちづくりモデル事業

雪の国のおはなし

その4

流雪溝の物語

市街地を中心に整備され活用されている流雪溝。その歴史や仕組みをご存知でしょうか。

今回は、十日町市流雪溝運営協議会と松代地区流雪溝運営協議会の協力を得て、流雪溝の実際を取材しました。

■流雪溝の始まり物語

流雪溝は河川などの水を利用して側溝に流し、宅地や道路の雪を河川に運び込む雪処理施設です。

十日町地域では、昭和47年に初めて流雪溝が設置されました。平成7年には十日町駅西口にある十日町市流雪溝中継ポンプ場が整備され、平成15年から7地区にゾーン分けされた現在のシステムで稼動しています。

松代地域では、昭和48年に消雪パイプの整備が行われました。しかし、当初消雪パイプ用で考えていた水源の川の水が冷たく消雪能力が低かったため、消雪パイプから流雪溝に改め、稼働したのが始まりです。

■流雪溝の数字物語

十日町地域では、信濃川と田川から、毎秒最大で2・1t（ドラム缶約10本分）、松代地域では渋海川から最大で0・083t（ドラム缶約半分）の水をポンプアップして利用しています。

十日町地域の流雪溝の総延長は、約50㎞、利用戸数は約3、600戸、松代地域ではそれぞれ約3・4㎞、157戸となっています。

■流雪溝の運用物語

多くの利用者があるため、流雪溝運営協議会が中心になってルールを作り、これに基づいて流雪溝は運用されています。通水する時間は区域ごとに決められていて、時間ごとに仕切板などで水の流れる方向を変え、効率よく流雪溝への投雪作業が行われています。

しがしながら、ときには、雪が詰まって水がせき止められ、流雪溝からあふれ出す「水上がり」が発生することがあります。多量の水が流れるために思わぬ事故を誘発するだけでなく、下流に水が行かなくなるため、この「水上がり」が発生した場合は、すぐに対処をしています。

■ご近所の底力物語

流雪溝の運用について、町内でも独自のルールを作り運営しているところがあります。

例えば、本町6丁目。水上がりしやすいところでは、投雪するのは1軒1人だけとし、時間帯で投雪できる家を決めています。一度に多く投雪されるのを回避し、水上がりを防いでいるのです。

このルールを守ることで、水上がりの回数は減少したとのこと。皆さん、参考にしてみてはいかがでしょうか。

【豆知識】

流雪溝の水はどこから来るの？

中里地域の宮中ダムから取水され、JR東日本千手発電所の放水路を経由して妻有大橋を渡り、総合体育館近くの緑道を通って、十日町駅西口の「十日町市流雪溝中継ポンプ場」に送水されています。

これだけの規模とシステムで流雪溝が整備されているのは、全国でも小千谷市と十日町市だけとのことです。

■取材を終えて…

家の近くに流雪溝があり活用していましたが、それほど気にはしていませんでした。

流雪溝は確かに便利な施設です。でも、多くの人が利用しています。ほかの人のことも考え、「投雪の時間を守る」「一度に大量の雪を投雪しない」「人力のみで投雪する」などのルールを守り利用していかなければならないと、再認識しました。

松代地域では、松代高校新聞編集委員会の皆さんといっしょに取材しました。初めて聞く話にうなずいている高校生の姿が、とても新鮮でした。

雪のひとくちメモ④

流雪溝のもう一つの価値

松代高等学校新聞編集委員会

「時間が命」を実感

流雪溝を近くで見るのは初めてだったので、見たり聞いたりが全部新鮮でした。

松代地域の流雪溝は、決まった時間、それも20分という限られた時間内に雪を落とさなければならず、慣れないと結構大変な作業です。でも、これが家の近くにあれば、重い雪が一瞬にして流れ去るわけだから大助かりなんだなと、実感しました。

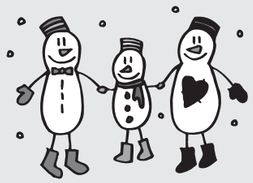
流雪溝で地域のきずなを深めよう

すごーく便利な流雪溝のようですが、問題もあります。最大のポイントは、消雪パイプと違って、人の手で片付けなければならない点です。

お年寄りにはちょっと大変な作業（松代地域の高齢化率は約43％）だし、業者などに委託するとさらにお金がかかってしまいます。

でも、そこはみんなで協力し合って雪を流すなど、地域の連携があれば負担を軽くすることができるかもしれません。

そうすれば、流雪溝は地域のきずなを深めてくれる、さらに価値ある存在になるのではないでしょうか。



まつだいステーション

松代支所
☎597-2220

思い出いっぱいの卒業証書
＝孟地小学校で伊沢和紙紙すき＝

2月17日㈬、孟地小学校（桑原哲朗校長・児童数18人）で、6年生4人による卒業証書の和紙すきが行われました。この卒業証書作りは、最後の伊沢和紙すき職人だった故佐藤勇吉さん（孟地）の指導で平成2年に始められ、一時期途絶えていた伊沢和紙復活のきっかけにもなりました。和紙作りは低学年から取り組み、原料となるコウゾとトロロアオイの栽培から加工まで各学年が分担して作業をするなど、学校の伝統となっています。

卒業証書は校章の透かし入りで、厚みをもたせるため1枚を仕上げるのに3回すいて作られます。4人は若月義則さん（孟地・59歳）の指導のもと、少し緊張した表情を浮かべながら、慎重に紙すきを行いました。その後、乾燥された和紙に文字が入り、卒業証書は見事に完成。柳知佳さんは、「校章の透かしが細かくて、すいた和紙の上に配置するのに苦労しました。6年間の和紙すきの中で、卒業証書が一番上手にできました」と笑顔で話していました。

3月24日㈬の卒業式には、6年間の思い出が詰まった手作りの卒業証書を胸に、4人は孟地小学校を巣立っていきます。

なかさとファンクラブ通信

中里支所
☎763-3111

たこたこあがれ
貝野小学校の連だこ軽やかに

2月20日㈯・21日㈰、ミオンなかさと駐車場で、貝野小学校の児童の夢をのせた連だこが空高く舞い上がりました。これは、越後妻有雪アートプロジェクトに毎年協力している貝野地区振興会が、イベントの一環で行ったもの。宮中集落のたこ作り名人、吉楽勝太郎さんと村山正利さんの協力の下、貝野小学校の全校児童と取り組みました。

10日㈬に同校で行われた連だこ作りでは、児童たちはグループに分かれ、小さなたこ一つ一つに思いを込めて一文字ずつ丁寧に文字をしたため、竹ひごをつなぎ合わせたり、色とりどりの連だこを夢中で作ったりしていました。そして当日、「全日本リコーダーコンテスト23回出場おめでとう貝野小学校」と書かれた連だこが信濃川からの風を受け、空高く舞い上がると、大人も子どもも大喜びでたこを見上げていました。

貝野小学校が出場するリコーダーコンテストは、3月28日㈰、東京都江戸川区総合文化センターで開催されます。児童の皆さん、地域からの応援の風を背に頑張ってください。

めんそーれ　中里へ
第38回 なかさと交流会

第38回目となる沖縄県久米島町との「なかさと交流会」が、２月18日㈭から21日㈰までの４日間にわたり行われ、小学５年生の訪問児童14人を含む20人の交流団がはるばる久米島町からやってきました。「なかさと交流会」は、19年前から当時の仲里村（なかざとそん）との間で行われ、冬は久米島町の児童が中里地域を、夏は中里地域の児童が久米島町を訪れ、お互いの家でホームステイをし、それぞれの風土や風習を体験しています。19日㈮には田沢小学校で歓迎式を行い、各学校への訪問・体験学習などで雪遊びやしめ縄作りを体験しました。それぞれのホームステイ先ではスキーや雪かき体験、雪まつりを楽しみ、夏の再会を約束しました。

どるり中里 たから探し
如来寺編

如来寺集落の服部松男さん（77歳）。生産から調理までをこなす、おそばの達人です。始まりは30年ほど前に転作作物として栽培したことだそうで、収穫したそばの実を手早く乾燥させて保存し、そのつど使う分を石うすでひき、ほぼ毎日自家製手打ちそばを楽しんでいます。そばの魅力を伺うと、「そばは栽培過程で農薬を使わないこと、つなぎに山ごぼうや海草のふのりを使うことから、穀物の中で一番の健康食だと思います」と話してくれました。服部さんの打つそばは、そばの香りとかみごたえ、のどごしを十分味わえる逸品です。「そば仲間ができたり、習いに来る人がいたり、おかげで退屈しません」。まだまだ研究中だという服部さん。目標の柔らかく、かつコシのあるそばを目指し、日々努力を重ねています。

寒さも吹き飛ぶ「かんじきダンス」

２月20日㈯、まつだい農舞台で「みんなでかんじきダンス」が行われました。越後妻有雪アートプロジェクト2010の参加型イベントとして行われたもので、地元の保育園児からかんじきを履くのも初めてという観光客まで総勢150人が参加。近藤良平さんが振り付けたおもしろおかしいダンスに、参加者も見物人も大笑い。あいにくの吹雪でしたが、踊り終わると、「楽しかったね」「またやりたいね」といった声が多く、集まった人たちの心も体も温めてくれるイベントでした。

松代の自然 61
トキワイカリソウ

長かった冬の雪から解放されると、眠っていた山は笑いだし、いろんな草花が一斉に咲きだして美しさを競います。がけの斜面などに純白の花を咲かすのはイカリソウで、花の形が船のいかりに似ていることからの名前です。当地のものは前年の葉が残っているので、ときわ（常磐）の意味から「トキワイカリソウ」という品種で普通に生えています。信濃川を渡った東側に行くと赤紫色のものがあり、働きに行った人が持ち帰って花壇の隅に植えておくこともありますが、土地が合わないのかあまり増えないようです。

トキワイカリソウ

漢名は「淫羊藿（いんようかく）」で、何やら妖（あや）しい雰囲気がありますが、古い書物の『和名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）』に「末良多介里久佐」とあるほど精力増強に効果があると信じられています（読めて理解できる人だけで、興味のない人は無理して読まないで結構かと思います）。葉や茎を刻んで焼酎に漬けたものを『仙霊脾酒（せんれいひしゅ）』と呼び、いかにもごりやくがありそうですが、果たしての効果は試した人にのみの秘密。

それとは無関係に、早春の花の一員として観賞したいものです。

（文と絵　高橋八十八）

ときめきネットワーク 57

メリハリよく仕事に集中

お金を扱う業務を担当しているので、何度も確認して間違いがないように注意しています。お客様から尋ねられたことに素早く対応するのは大変ですが、〝ありがとう〟と温かい言葉をかけてもらえるとうれしいですね。

同じ年に採用された同期はとても仲が良くて、今度みんなで旅行に行こうと計画を練っている最中です。いつ行くかはまだ決まっていませんが、温泉でのんびりする予定。今からとても楽しみですね。今一番興味があるのは、昨シーズンから始めたスノーボード。今シーズンもあと少しですが、できるだけスキー場に行こうと思っています。まだようやくターンができるくらいの腕前ですが、ジャンプができるようになることが目標です（笑）。

就職してもうすぐ1年。覚えることがたくさんあって勉強の日々ですが、仕事と息抜きのメリハリをつけて、家庭と仕事を両立できるキャリアウーマンを目指します！

小林　いづみ さん
1989年生
十日町市役所勤務

先月の鈴木彰さんからのバトンタッチ。

エコ生活チャレンジ 12

市民生活課環境政策室　☎757-3740

美しい地球を未来に！

市民環境会議のごみ減量・レジ袋削減部会が担当したこのコーナーも、今回が最終回となりました。同部会では、６月と10月に、マイバッグやエコティッシュなどを配布しながらマイバッグ持参を呼びかける『マイバッグキャンペーン』を実施しました。見かけた人もいるのではないでしょうか。「持っていますよ」とマイバッグを見せてくれた人もいて、意識が高まっていることを肌で感じ、うれしい限りでした。なお、10月に調査した持参率は下表のとおりです。

	調査人数	持参人数	持　参　率
男　性	71人	20人	28％
女　性	206人	120人	58％
合　計	277人	140人	全体持参率：51％

環境問題は、今や人々の命と暮らしにかかわる問題であり、環境について考えることは私たち一人ひとりの生き方を問い直すことにもつながります。さらに、ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんは、ごみを減らすためのキーワードである３Ｒを実践することで、限りある資源の分配が平等になれば、テロや戦争の抑止につながると力説しています。

市民環境会議では、今後も「緑豊かで潤いと安らぎのあるまち」の実現に向けて活動を続けていきます。ごみ減量・レジ袋削減部会でも、自分たちができることは何かを考えていきます。私たちの住む美しい地球を未来に受け継いでいくために、日々の生活を見直し、環境にやさしい生活スタイルを実践していきましょう。市民環境会議に興味がある人は、いっしょに活動しませんか。詳しくは環境政策室へ。

わが家のアイドル（４歳未満の幼児）募集中！　申込み・問合せは総務課広報広聴係　☎757-3112まで

あいどるキャッチ 57

徳永　鉄将 ちゃん　とくなが　てっしょうちゃん
平成18年３月３日生まれ
川治下町３

２歳のお誕生日にもらった自転車でサイクリングをするのが大好き！とっても元気なてっちゃんはお手伝いが得意で、お料理も上手。お気に入りのエプロンをつけて、みんなにホットケーキを焼いてくれます。

羽鳥　楓一朗 ちゃん　はとり　ふういちろうちゃん
平成18年８月31日生まれ
本町２　（写真後ろ）

弟のいつきちゃんととっても仲良しのふうちゃん。二人とも車が大好きで、いっしょにミニカーで遊びます。スノーダンプで除雪するのが上手なふうちゃんの将来の夢は、救急隊。“いたいいたいした人を運んであげるの！”

元気予報

定期予防接種を受けましょう

予防接種は、病気に対する抵抗力（免疫）を体内につくってお子さんの健康を守ることや、感染症が流行するのを防ぐ目的で行われます。

予防接種には、それぞれ接種に適した年齢がありますので、その年齢に合わせて、なるべく早い時期に受けるようにしましょう。各予防接種の対象年齢は、下表を参考にしてください。

いずれの場合も、対象年齢を過ぎると自費での接種（任意接種）になりますのでご注意ください。

●ポリオ予防接種は、春と秋に集団接種を行います。日程は市報や健康カレンダーで確認してください。

●そのほかの定期予防接種は個別接種で行います。個別接種は、接種を受ける人が直接医療機関に申し込んでください。

＊乳幼児や学齢期のお子さんがいる家庭では、各予防接種が済んでいるかを母子健康手帳で確認をしながら、計画的に接種を受けてください。

問合せ　健康支援課母子保健係　TEL757-9759

《定期予防接種》

予防接種の種類		対象年齢	標準的な接種期間	接種回数・間隔
ＢＣＧ		生後６か月未満	生後３か月以上６か月未満	１回接種
ポリオ		生後３か月以上７歳６か月未満	生後３か月以上18か月未満	41日以上の間隔で２回接種
三種混合	第１期初回	生後３か月以上７歳６か月未満	生後３か月以上12か月未満	20～56日の間隔で３回接種
	第１期追加		初回終了から12～18か月後	１回接種
二種混合	第２期	11歳以上13歳未満	11歳	１回接種
麻しん風しん	第１期	１歳以上２歳未満	—	１回接種
	第２期	小学校就学の前年度	—	１回接種
	第３期	中学１年生に相当する年齢	—	１回接種
	第４期	高校３年生に相当する年齢	—	１回接種

※日本脳炎予防接種は現在、厚生労働省の通知により接種勧奨を控えています。
※対象年齢の枠からはずれて接種する場合は、任意接種（自費）となります。

まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係（☎757-3112）へ、気軽にお寄せください。

冬の災害にも怠りなく

積雪状況の中での災害を想定した防災訓練が、２月28日㈰、西小学校で行われました。十日町市では、中越大震災の教訓を忘れないために毎年防災訓練を行ってきましたが、冬季の訓練は合併後初めての計画であり、豪雪地の十日町市では特に経験をしておく必要があるものでした。訓練は、消防本部や警察署などの関係機関のほか、近隣町内の自主防災会など、約150人が参加して行われました。今回の訓練では、雪崩に巻き込まれた住民の捜索を、身近にある農業用支柱（イボ竹）により行ったり、屋根雪がある状態で倒壊した住宅の捜索のため、雪の排雪なども行いました。前日にはチリ地震があったばかりということもあり、参加者は真剣な表情で訓練に臨んでいました。

地域の輸送に大きな力

２月19日㈮、NPOさわやか下条に㈶日本船舶振興会（日本財団）より29人乗りの福祉車両が贈呈され、下条中央通りのケアハウスみよし台の駐車場で贈呈式が行われました。NPOさわやか下条では、創立以来５年間にわたって下条小学校・下条中学校の部活などの教育活動や、地域内の団体の研修などで会員に対する無償の送迎を行ってきました。しかし、現在所有している車両が老朽化し、運営を続けることが難しくなってきたことから、同財団に申請を行っていたものです。贈呈式では新しい車両を前に、関係者から喜びの声が上がっていました。

農地・水・環境保全向上対策十日町地域協議会

地域づくり講演会

２月24日㈬、「地球環境を見据えて、私たちがすべき地域づくり」と題した講演会がクロス10で開催されました。講師は未来バンク事業組合理事長の田中優さん。田中さんはミスチルの桜井和寿さんや坂本龍一さんたちが環境問題の解決を資金面で支援するバンクを立ち上げるきっかけを作り、中小企業などに融資しています。田中さんは地域づくりを独自の視点から展開。地域通貨の活用や地産地消を例に、その地域にある物を見つける大切さを説いていました。

めざせ！観光交流都市 とおかまち ㉑

～ビジット・ジャパン・キャンペーン～

観光交流課　☎757-3100

ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）とは2010年に訪日外国人旅行者数を1,000万人にすることを目標に、日本の魅力を海外に発信する外国人誘致のキャンペーンです。アジアや北アメリカ、ヨーロッパの12か国を重点市場として、2003年４月にスタートしました。今回は、十日町市の外国人誘客の取り組みを紹介します。

うまさ ぎっしり 新潟

ポスト新潟DCのシンボルマーク

毎年５月に行われるきものまつり。外国人観光客にも人気があります

■十日町市の外国人観光客の状況

昨年夏に開催された「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2009」では、全国から37万人を超える観光客が訪れました。国際アートということもあり、会期中に約1,000人もの外国人観光客が十日町市を訪れました。また、雪国観光圏事業の一環として、今年1月から「Snow Country Festival（スノーカントリーフェスティバル）」という取り組みを行い、海外へ雪国を積極的に情報発信しています。この成果もあってか、先月開催された十日町雪まつりには、昨年より多くの外国人観光客を見かけました。特にアジア圏からの観光客が多くみられ、地域を問わず、雪に興味がある外国人が多かったようです。

■広がる国際交流

十日町市はイタリア・コモ市と姉妹都市交流を結んでいます。提携35周年を迎える今年は、コモ市親善使節団が5月に十日町市を訪れる予定です。また、クロアチアとスポーツ交流を行っているほか、松之山の浦田地区には芸術祭をきっかけにオーストラリア・ハウスが出来ました。このような交流が外国人観光客の増加につながっていくため、今後も継続的な取り組みが大切となります。

平成17年７月にコモ姉妹都市提携30周年を記念して、イタリアから若者４人が車で来市しました

■自然・温泉・アートで外客誘致

十日町市では昨年6月と今年1月の2回、韓国メディアを交えての意見交換会が松之山温泉で行われました。この意見交換会で大地の芸術祭をはじめ、松之山温泉や美人林、棚田などの観光情報をPRし、十日町市の魅力を伝えることができました。そのほかにも今年1月には、韓国と香港のブロガーと呼ばれるインターネット上に論評などを加えて情報発信する人たちが松之山や松代を視察に訪れました。実際に農舞台などの施設を見学し、ブログ（インターネット上で公開する日記）で外国人向けに十日町市を紹介してもらいました。

■十日町市を世界に発信！

市観光協会では、安心して外国人宿泊客に対応できるよう「宿泊施設外国人指さし対応マニュアル」を作成しました。また、公式ホームページでは、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語で十日町市の概要を紹介していましたが、今年1月から英語の詳細版が公開されました。芸術祭や雪まつりなどのイベントをはじめ、各観光施設や観光情報などを紹介しています。公開後すぐに外国人からの問い合わせがあり、十日町市も海外から関心を持たれていることが分かりました。特に今年は5月から中国・上海で上海国際博覧会が開催され、新潟県ブースも開設されます。また、日本政府館で放映されるPR映像に十日町市の里山風景が使用される予定で、今後ますます多くの外国人観光客が十日町市を訪れることが期待されます。

GUIDE

お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111

GUIDE 催し 講座

十日町商工会議所 新入社員実務基礎セミナー

新入社員に必要な基礎知識や職場でのルール・マナーなどについての実習を交えた研修会です。●**日時**＝4月9日㈮午前9時～午後5時●**受講料**＝会員2、000円、非会員4、000円（昼食・資料代含む）●**持ち物**＝筆記用具●**会場・申込み・問合せ**＝3月26日㈮までに十日町商工会議所（☎757―5111）

十日町おやこ劇場 人形劇『かえるくん かえるくん』

人形劇団「ひぽぽたあむ」による人形劇です。●**日時**＝3月14日㈰午前11時～（40分間）●**会場**＝サンクロス十日町●**対象**＝会員限定※その場での入会もできます（入会金：一家族1、000円、会費：年中以上のお子さん1人につき月額700円）●**問合せ**＝おやこ劇場事務所（加賀書院内☎752―2114）

枯木又エコミュージアムの会 手打ちそばの会

手打ちを体験して、自分で打ったそばを食べながら交流しましょう。黒米そばも作ります。●**日時**＝3月21日㈰午前10時～（交流会は正午ころから）●**会場**＝交流施設「のっとこい」●**参加費**＝一般1、500円、高校生以下700円、幼児無料●**申込み・問合せ**＝3月19日㈮までに春川（☎759―2216）

インド文化センター賞受賞記念 インド古典音楽&舞踊&ヨガ公演

太鼓・舞踊・ヨガなど、多彩なインドがいっぱい！インド人演歌歌手チャダさんも特別出演する予定です。●**日時**＝3月27日㈯午後3時～●**会場**＝千手中央コミュニティセンター●**入場料**＝大人1、000円（当日1、500円）、学生500円（当日800円）●**問合せ**＝NPO法人日印交流を盛り上げる会事務局（ミティラー美術館内☎752―2396）

GUIDE スポーツ

第23回信濃川河岸段丘ウォーク

●**期日**＝4月29日（昭和の日）●**コース**＝①Aコース50㎞（津南町～小千谷市）②Bコース42㎞（中里～小千谷市）③Cコース25㎞（川西～小千谷市）④Dコース23㎞（津南町～十日町市）⑤Eコース15㎞（十日町市内）⑥Fコース12㎞（小千谷市内）●**参加費**＝▼A～Dコース：大人2、000円（当日2、500円）、中学生以下1、000円（当日1、500円）▼E・Fコース：大人1、000円（当日1、500円）、中学生以下500円（当日800円）●**申込み・問合せ**＝4月26日㈪午後5時（郵送の場合は4月20日㈫までに市総合体育館（☎752―4377）、川西総合体育館（☎768―2167）、中里公民館（☎763―2493）

グレステンカップ 第42回十日町アルペンスキー選手権大会・第6回中峰スキー場ジャイアントスラローム大会

●**期日**＝3月14日㈰●**競技開始時間**＝幼児レース：午前9時40分、1本目競技：午前10時10分●**会場**＝下条中峰スキー場●**参加費**＝小学生以上1、500円、幼児500円（Tバーリフト代含む）●**申込み**＝事前受付は締め切りましたので、参加を希望する人は当日会場で受付をしてください（受付時間：午前7時30分～8時20分）●**問合せ**＝十日町スキークラブ（ホンマ科学㈱内☎757―2493）

GUIDE 募集

スリーエスITトレーニングセンター 基礎演習コース 受講者募集

厚生労働省の緊急人材育成支援事業基金訓練です。社会人として必要な基礎知識の習得、パソコンや各種ビジネスソフトウェアの基礎演習を行います。3月25日㈭には事前説明会を開催します。●**期間**＝4月26日㈪～10月25日㈪午前9時10分～午後3時50分（6か月間）※土・日曜日、祝日は除く●**会場**＝スリーエスITトレーニングセンター（伊達3）●**受講料**＝無料※テキスト代（15、000円程度）が別途必要●**定員**＝15人●**申込み方法**＝管轄のハローワークで求職申込み・相談・手続きを行い、問合せ先に受講申込書を郵送または持参●**申込み締切り**＝3月31日㈬（必着）●**申込み・問合せ**＝〒949―8522十日町市伊達甲960―1

寄付ありがとう

2月25日届出分まで（敬称略）

●**とおかまち応援寄附金へ**＝森口敬造（津南町）石田憲一郎（新潟市）中井雅彦（東京都世田谷区）谷岡拡（東京都新宿区）布施順（埼玉県さいたま市）奥山茂智（山形県寒河江市）山本珠子（千葉県市川市）
●**情報館へ**＝松尾社遷座百年祭実行委員会（高島2）富士見市立水子貝塚資料館（埼玉県富士見市）㈶日本学術協力財団（東京都港区）
●**博物館へ**＝滝沢正晴（本町7－2）

㈶新潟県中越大震災復興基金からのお知らせ

被災者生活支援対策（地域コミュニティ再建）の「集落等復興支援」は、事業期間が平成23年度（24年2月末）までですが、22・23年度分の申請をまとめて受け付けることになりました。申請を予定している集落は、4月9日㈮までに申請書を市窓口へ提出してください。

詳しくは、㈶新潟県中越大震災復興基金ホームページ（http://www.chuetsu-fukkoukikin.jp/index.html）で確認してください。

■**申請・問合せ**
総合政策課自治振興係　☎757-3193
または各支所地域振興課
※4月1日以降の市窓口は、行政組織の改正に伴い、部署名が変更となる予定です。

GUIDE その他

3月23日㈫は公的個人認証申請ができません

市役所本庁・各支所では、3月23日㈫の終日、定期点検のため公的個人認証申請（電子証明書取得）ができません。ご理解・ご協力をお願いします。●**問合せ**＝市民生活課市民係（☎757―3116）または各支所市民課

慰霊巡拝事業を実施します

厚生労働省では、旧主要戦域での慰霊巡拝事業を実施します。●**実施戦域**＝旧ソ連地域、中国東北地区、インドネシア、東部ニューギニア、ミャンマー、マリアナ諸島、トラック諸島、フィリピン、ギルバード諸島、硫黄島●**実施時期**＝8月下旬～23年3月上旬●**問合せ**＝県福祉保健課援護恩給室（☎025―280―5180）

里親になってもらえる人を募集しています

さまざまな理由から家庭で生活できない子どもを家族の一員として温かく迎え、愛情を持って養育してくれる人を募集しています。詳しくは問い合わせください。●**問合せ**＝南魚沼児童相談所（☎025―770―2400）

食育ボランティア募集

県では、学校や地域活動の場での食育活動を支援する「食育ボランティア」を募集しています。応募方法など詳しくは問い合わせてください。●**対象**＝児童や生徒、一般住民へ、無償でボランティア活動ができる個人・法人・団体など（資格は不要）●**問合せ**＝県食品・流通課（☎025―280―5304）

パソコンを使った音声訳・編集ボランティア募集

十日町朗読サークルでは、目の不自由な人のために、朗読してパソコンに録音しています。パソコン初級程度の技能があり、市報の録音のお手伝いをする音声訳ボランティアとテープの録音をCDに変換する編集ボランティアを募集しています。●**申込み・問合せ**＝酒井（☎757―6918）

食育ボランティア募集

さまざまな理由から家庭で生活できない子どもを家族の一員として温かく迎え、愛情を持って養育してくれる人を募集しています。詳しくは問い合わせください。●**問合せ**＝南魚沼児童相談所（☎025―770―2400）

食育ボランティア募集

県では、学校や地域活動の場での食育活動を支援する「食育ボランティア」を募集しています。応募方法など詳しくは問い合わせてください。●**対象**＝児童や生徒、一般住民へ、無償でボランティア活動ができる個人・法人・団体など（資格は不要）●**問合せ**＝県食品・流通課（☎025―280―5304）

公営住宅入居者募集

●**募集期間**＝3月12日㈮～26日㈮※入居資格など申込み条件の詳細は問い合わせてください●**申込み・問合せ**＝克雪維持課建築住宅係（☎757―9935）

地域	物件		間取り	家賃（月）	募集戸数
十日町	黒沢県営住宅	昭和46年度建築 簡易耐火造2階建	6帖1室、3帖1室、DK	8,900円～13,200円	1戸 ※単身入居可
川西	みのり団地	平成10年度建築 木造高床3階建	6帖3室、LDK	50,000円	1戸
松代	善宗塚住宅	昭和52年度建築 簡易耐火造3階建	6帖1室、4.5帖2室、DK	12,000円～17,900円	1戸
	中通住宅	平成6年度建築 木造高床3階建	10帖1室、6帖1室、LDK	18,900円～28,200円	1戸

あちこちたね

▼3月13日㈯、雪原カーニバルなかさとが清津スキー場で開催されます。今年は雪もどっさり、きっと晴れることでしょう。メーンイベントでもあるスノーキャンドル。キャンドルの並べ方ですが、実は毎年違います。スタッフで一番きれいに見える並べ方を考えています。過去には扇状やウェーブ状などに挑戦しました。今年はどんな並べ方にするのかは当日のお楽しみ。事前カップ作りから始まり、当日の設置作業、そして点灯。カーニバルは大勢の皆さんの協力があってできています。スノーキャンドルのいいところは、頑張って準備をして一つ一つに明かりをつけ、ふと振り返った瞬間です。自分の後ろにできた優しい明かりの道に本当に感動します。偶然この記事をご覧になった人、カーニバルに来ませんか。会場でお待ちしています。

（石）

▼雪で作られた日本庭園をしとやかに歩く着物の女性。寒さを感じさせない優雅な姿とは対称的に、見るからに寒くなさそうな自分。十日町雪まつりの取材も早3回目、念を入れて防寒する大切さが身にしみているからこその格好でしたが、上品な着物姿はやっぱりすてき。ちょっとうらやましくなりました。

▼雪の日が減り、雨や晴れの日が増えました。市内各地域で次々に開催されている冬の一大イベントが終わると、春の気配が途端に強まります。桜の開花予想もそろそろ話題に上がるころでしょうか。春は、なんとなく何か新しいことにチャレンジしたくなる季節。うらやましがってばかりいないで、着付けを習ってみようかな。

（五）

■発行/十日町市役所 〒948-8501 新潟県十日町市千歳町３丁目３番地
E-mail t-somu@city.tokamachi.lg.jp URL http://www.city.tokamachi.niigata.jp TEL.025-757-3112 FAX.025-752-4635
■編集/総務課広報広聴係

ジュニア芸術祭

57

千手小学校

こんなようふくほしいな

佐野さくらさん（１年）

ようふくがすきなので、じぶんできてみたいようふくをかみをはってつくりました。ようふくのもようがうまくできました。

春日天翔さん（２年）

紙しばいをみていたら、おにがでてきたところをつくりました。豆やピーナッツを投げたら、紙しばいのなかに戻りました。

紙しばいおに「おにが出たあ」

芸術の冬

星名那美さん（４年）

雪のけっしょうを、かみをいちまいいちまいはさみできってつくりました。アルミカップもつかっていろいろな色をつくりました。

高橋太陽さん（３年）

自分で考えた、空飛ぶドラゴンを作りました。算数で習った三角形を使って、作りました。ドラゴンの羽が動いているようによくできました。

天空ドラゴン

瀧澤　遼さん（５年）

野球をやっているけど、冬は野球ができないので、家で素振りの練習をしています。一生懸命な表情がうまくできました。早く野球がやりたいです。

がんばった素振り

髙橋芽生さん（６年）

学習発表会で、ルパン三世のテーマ曲を演奏しました。むずかしい曲だったけど、うまくできました。鍵盤の白いところがよくできました。

学習発表会

市民の動き

■人　口　60,591人（−71）男　29,676人（−26）　女　30,915人（−45）
■世帯数　20,024世帯（＋４）２月末現在（　）は前月からの増減